

好きな先生
のために
女になった日





「おれくん♡」
「え！？先生！？」
「なんで裸……に……？」
「見たかったんでしょ？♡」



「先生の裸♡」
「それは…」
「でも、なんで先生が俺の部屋に…」
「ふふ♡なんてだろうね♡」



「そんな事より...」
「もつと見てもいいよ♡」
「こことか...♡」
「せ、先生の...」

ま●い...
「す...」

うばあ...♡

「おれくんに見られると…」
「興奮しちゃうな…♡」
「ほら…♡」
「どんだん濡れてきた…♡」

すっ♡

すっ♡

びくっ

くっ
すっ

くっ
すっ





「ここにおれくんの」
「おち●ぽ…」
「入れて欲しいな♡」
「いいんですか…?」
「うん♡入れて♡」

ドキ

ドキ

ドキ

くしゃくしゃ

くしゃくしゃ

はぁいっ

はぁいっ

「そのギンギンになった」
「おち●ぼ……♡」
「先生のおま●こに……♡」
「ちようだい♡」

す♡

す♡

す♡

す♡





はぁ♡

はぁ♡

「ああ♡」

「おれくんのおち●ぽ♡」

「大きくて気持ちいい♡」

「先生…先生…」

ぢゅぽ

ぢゅぽ



「おれくん♥」
「先生のま●こどう?♥」
「き、気持ちいいです...」
「すこく...気持ちいい」



「ま●こ…おれくんの形に」

「されちゃう♥」

「先生っ!」

「俺…もう…」

「すまの」

「ぐちゃ」

「ぐちゃ」

「ハッ」

「ぐちゃ」

「ハッ」



「ふふ♡」
「もう?♡」
「それじゃあ...先生の中に」
「出しちゃっていいよ♡」
「先生に中出して♡」



すまの

ぐちゃっ

ぐちゃっ

パン

ぐちゃっ

パン

「ああああっ」
「で、出るっ」

「来てっ♥」

「おれくんの精子…♥」

「たくさん出してえ♥」

ぐちゃっ

パン

「ああ……」

夢……か……

また、こんな夢を……



「ああ……先生とやりてえ……」



「あら？おれくん」
「どうかした？」
「ああ、先生…好きだな…」
「あの…その…」
「ん？」





「先生…」

「俺…先生のことが…」

「好きです…!」

「え!」

「かバチ…」

「どうせもう卒業だし最後に…」



「ごめんね…」
ああ…やっぱりダメか…
「私…女の子じゃないとダメなの…」
そっか…女の子じゃないと…
ん？
「え？」

「おれくんが女の子なら・・・」

「その気持ちに応えれたんだけど・・・」

「あっ！でも、もしおれくんが女の子になるなら・・・」

「いいよ♡」

「え・・・」

「んん？理解が追いつかない・・・」

「俺が女に？そうすれば・・・OKってこと？」



「女の子って…それで…」

「でも、俺金ないからしゅ、手術とか…」

「ああそれなら大丈夫♡」

「これがあるから♡」

「それって…?」

「ん?知らない?最近流行ってるの!」

「これ、すごくて飲んだら身体の性別が変わっちゃうの♡」

「私のことが好きなら飲めるよね?♡」



まじか…

でも、これを飲めば…先生と…

「でも、無理はしないでいいよ?」

「いきなり飲めって言われても怖いよね?」

「いや! 飲みます! 先生のためなら!」

「俺、これ飲んで…女の子になります!」

「いただきます!」

バリ
ゴッ





味は…ない…？

これで本当に…？

「あら♡いいね♡♡」

ん？これ…変わったのかな？

「おれくんがそんなに私のこと思ってくれて嬉しい♡」

「約束通り…応えないとね♡」

「そ、それじゃ…」

先生と…付き合える！？



「そのベッドに裸で座って♡」

「え?」

「ほら♡早く…制服…脱いで♡」

「んんん???」



「あの…先生…?」
「はぁ♡いいね♡♡」
「ゾクゾクしてきた♡」
「先生にそう言われて嬉しい気持ちもあるんですけど…」
「これは…その…」

「おれくん?♡」

「大丈夫♡」

「これから気持ちいことするだけだから♡」

「鍵も閉めたし...」

「これで2人っきり♡」

「たくさん楽しみましょう?♡」

先生って...結構やばい...?



「思ってたより可愛いな♡」

「ちゃんと飲んでくれたご褒美もあげない♡」

「なにか…してほしいことある?♡」

「え…えつと…」

「それじゃ…」





「先生の…」
「お、おっぱいが…」
「触りたい…っ！」
「ふふ♡いいよ♡」
「触らせてあげる♡」
「こっちおいで♡」



「好きなだけ触っていいよ♡」
「えっ…本当に…?」
「うん♡嘘ついてどうするの?♡」
「約束は守るものでしょ♡」
「ほら、遠慮しなくていいよ♡」

ト



「そ、それじゃ...」

「失礼し...します...」

「ん♡」

「はあ...すげえ...」

「柔らかい...先生のおっぱい...」

パフ...

ムン

ドキ

ドキ

ドキ



「すごいエッチな触り方♡」

「おっぱい好きなの?♡」

「...はい...」

「もしかして...触るの初めて?♡」

「!？」

ん

ん



「ふふ♡図星だったかな♡」
「それじゃあ、今日は特別にたくさん楽しませてあげる♡」
「忘れられない日にしようね♡おれちゃん♡」
「また、そこに座って♡」

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



「もう♡ちゃんとここ手入れしないとだよ♡」
「こんなに生やしちゃって♡」
「先生が…切れに剃ってあげるね♡」
「えっ…先生って…」



「ん？無いよ♡」
「パイパンってやつ♡知ってる？♡」
先生…生えてないんだ…
「すごく敏感になって…エッチの時…」
「気持ちいいんだよ♡」



「あつ……」

「ちゃんとクリームで毛を柔らかくして……」

「先体の時となんか違う……」

「女の身体になってるから？」

「馴染んできたら……剃るよ♡」

ぴくっ



「んっ……」

「優しくやるけど、痛かったらすぐに言ってね？」

「は、はい……」

ああ……剃られて……く……

シャーッ……



「ほら……♡」
「綺麗になってきた♡」
「剃ったことなかった?♡」
「はい……」
「なら、今日だけ初体験たくさんだね♡」

シヨッ
シヨッ



「可愛い割れ目も見えてきたよ♡」
「このあとたくさんここ触って気持ちよくしてあげる♡」

「ん...」

「ん...」

「ん...」



「綺麗なおま●こ♡」

「全部無くなっちゃったよ♡」

「すごい……」

ツルツルだ……

ブルー

ブルー

トク



「本当に可愛いおま●こ♡」

「はぁ♡はぁ……♡」

「ちよっ……先生……」

「近い……です……」

「はぁ♡♡」

「はぁ♡」

「はぁ♡」



「あっ!はあっ!」

「可愛い♡」

「こんなおま●こ見せられたら我慢できない♡」

「ま、待って…くださいっ!」

「なんだこれ…頭のでっぺんまで…」

「電気が走ってるみたいに…」



「剃りたてだから刺激強いかもね♡」
「おま●こ、舐めれるの気持ちいでしょ?♡」
「先生の…頭が変になりそう…」
「変な感じ…頭が変になりそう…」



「だんだんエッチなお汁出てきたよ♡」
「ちゃんと女の子の身体になってるね♡」
「これが…女を感じる…?」
「やばい…ふわふわする…」

ドキ

どくっ

どく…

どくっ

どくっ

どく…

ドキ

ドキ

ドキ

はあ♡



身体に力入らない…
でも、すごく気持ちいい…

「おま●ことおっぱい…♡」

「一緒に触ってあげる♡」

「おっぱいの感覚もしっかり味わってね♡」

ゲッ

もみ

ゲッ

触られてる…
先生に俺の身体…
こんなに気持ちいいことだったんだ…
女の身体…めっちゃ気持ちいいじゃん…
あっ先生のお尻…
こんな近くに…





「んっ!♡」
「あら…♡先生にいたずら?♡」
「イケない子ね…♡」
「ああ…先生のお尻…
触り心地…最高…」

さわ
♡
♡
♡



もみ

さわ

ぴく

ぞくぞく

「そんなに先生のお尻好き?♡」

「さわさわ触って...♡」

手が勝手に動く...

理性がコントロールできない...

「ふふ♡そんなイタズラっ子にはお仕置きだね...♡」

さわ

もみ

ぞくぞく

ぴく



Pony

「これで…お仕置き♡」
「でも、お尻触られてちよつと気持ちよかったから」
「ご褒美も合わせて♡」
「先生も裸になってあげる♡」
先生の…おっぱい…!!

「ちゃんと声出さないように頑張ってね♡」
「鍵は閉めてるけど・・・」
「大声出しちゃったら誰かにバレちゃうから♡」
「なんかすごい動いてる・・・」



「これ…すごいんだよね♡」
「先生は好きだけど…」
「おれちゃんも気に入ってくれるといいな…♡」
まさか、それを…中に…？
「はい♡お尻出して？」





「入れるね〜♡」

「うっ!?!」

入ってきた!?!

中に…なんだこの感覚!?!

身体の中に…異物が…!?!

「すごい♡どんどん入ってくよ♡」

「頑張ってね〜♡」

ぐわい
ぐわい
ぐわい

ん



「スイッチ入れたら…もっとすごいよ♡」
「せ、先生…ちよつ…」
「我慢して、声出さないようにね♡」
「えっ！」

わんや





ぐちゃぐちゃ
びくびく

「んんっ！」

「ふふ♡頑張ってる♡頑張ってる♡」

「あゝ♡可愛い♡」

お腹の中が…

かき混ぜられてるみたい…

苦しいのに…なんでこんなのが…

気持ちいいって感じるの…？

女って変だよ…っ！

ぐちゃ

びく

びく

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

びく

ぐちゃ



やばい...なんか上がってきた!?!
「苦しそう♡」
「そろそろイキたくなってきた?♡」
これが...女の...っ!
やばいっ!

やばいっ

ぐちゃ

ぐちゃ

びくっ

ぐちゃ

やばい

びくっ

やばい

びくっ



「んんっ……」
「ふふ♡女の子になってからの……」
「初イキだね♡」



はぁっ♡

ぐずっ

ぐずっ

はぁっ♡

ぐずっ

「あっ!ちよっ…」

「先生もイキたくなっちゃった♡」

「女の子の身体同士で繋がりながら…♡」

「一緒に気持ちよくなろう♡」

「ま、まだイったばかりで…感覚がっ…」

はぁっ♡



先生…先生…

こんな人だったんだ…先生…

「そんなの関係ない♡」
「気持ちいのに休むなんて勿体無いでしょ♡」
「おかしくなるまでやらないと♡」









「ほら♡もっと♡」

「もっとおかしくなっちゃえ♡」

もう…意味がわからない…っ！

自分の身体じゃないみたい…っ！

「も、もう…やめっ…っ！」

はあ♡♡

はあ♡♡

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ



「ふふ♡そう言うわりに腰はすごい気持ちよさそうに」

「動かして♡」

「本当はもっと欲しいんだよね?♡」

「先生はわかってるよ♡」

「だから…もっとしてあげる♡」

「先生ももっと気持ちよくなりたいし♡」





「何も言わないってことは同意ってことだよね♡」
「それじゃあ、最後までしちやおうね♡」
「ああ……まだだ……また……」
「あれが……くる……」



「んんっ！おおっ！？」
「あはは♡またイってる♡」
「女の子の身体堪能してるね♡」
「もっとイって♡」



おお♡

「ああ…っ！」

「ふふ♡」

「おかしくなったちゃえ♡」

「それで先生ともっと♡」

「もっとしようね♡」

びく

びく

ぐぢ

ぐぢ

はあ♡♡

はあ♡♡

はっ♡





「はあ……はあ……」

あれ……？

どうなった……？

おれ……どうなった……？

なのも覚えてない……

ドクン

ムン

はあ

ハッ

はあ

ドクン

「ちよっといきなりやりすぎたかな?♡」
「まあ、ここ保健室だし・・・」
「ゆっくりしていいよ♡」





「元気になったらまた……」

「先生とやろうね?♡」

「ああ……はあ……」

「どうなった……?」

「おれ……先生と……したんだよね……?」



また…するの…？
先生と…エッチ…できるの…？



読んでくださる方がたくさんいます！

次のページからおまねくページになります！

おまねく















































